

平和運動センター通信 原水禁ヒロシマニュース

■発行：広島県平和運動センター
原水爆禁止広島県協議会（広島県原水禁）
■〒733-0013 広島市西区横川新町7-22 自治労会館 1階
■TEL:082-503-5855 FAX:082-294-4555
■E-mail:h-heiwa@chive.ocn.ne.jp
■広島県原水禁 ホームページ <http://www.hiroshimaken-gensuikin.org/>
ー子どもや孫たちに、戦争も核もない、美しい地球を！ー

No. 201

2017年
9月号
(9月1日)

発行責任者
渡辺 宏
(事務局長)

安倍政権、福島原発事故から何ら学ばず、実態を覆い隠し、原発再開を進めることの意味は何か。原発の使用済核燃料の数量や核燃サイクル事業の実態から、日本は核兵器を自ら生産し配備するのではないかと危険視されています。

被爆72周年原水禁世界大会は8月4日から9日にかけて広島・長崎において開催され、平和行進から大会まで、県内の多くの皆様のご協力と参加で無事終了することができました。

秋季の平和運動は安倍による改憲・労働法改悪などとの闘いが正念場を迎える。平和憲法を投げ捨て、米国と一体化して、東アジアにおける緊張を高め、戦争への道と突き進む安倍政権を許さず、我が国が先の戦争の反省のもと、平和憲法を活かした、積極的平和外交へ舵を切りなおさせるために、世論を動かす運動を積み上げていかねばなりません。

――目次――

- 1頁：9月の活動予定（9/1現在）
- 2頁：被爆72周年原水爆禁止世界大会開催（8月4～9日）
- 4頁：「9条改悪許さない！」「安倍政治NO！」街頭行動（8月19日）
- 5頁：世界人権宣言・学習会を開催（8月19日）
第20代高校生平和大使・国連派遣壮行会（8月19日）

【9月の活動予定】（9月1日現在）

- 9日(土) 広島朝鮮学園チャリティー公演・広島芸術祭（アステールプラザ）
- 11日(水) 平和運動センター常任幹事・幹事・地区労代表者会議（自治労会館）
- 18日(祝) 「ストップ！戦争法広島実行委員会」主催・集会（原爆ドーム前）
- 24日(日) アフリカ支援米稲刈り（向原町）
- 27日(水) 県原水禁常任委員会（自治労会館）

被爆 72 周年原水爆禁止世界大会・広島大会開催 ～日本の核政策の問題を考え・行動を促す～

被爆 72 周年原水爆禁止世界大会・広島大会は、8 月 4 日グリーンアリーナで開会された開会総会を皮切りとして、市内各会場において分科会やひろば・フィールドワークに全国から参加があり、核兵器廃絶・原発廃止・東アジアの平和構築などのテーマで開催されました。開会総会は、炎天下のもと平和公園から会場のまで「折鶴平和行進」を行い、海外代表含めて 2,700 人が結集し開催されました。

総会は、第 16 代高校生平和大使を務めた松岡朱音さんの司会で始まり、参加者一同で核の被害で亡くなられた方々への 1 分間の黙祷後、実行委員会を代表して川野浩一大会実行委員長が「核兵器禁止条約は 122 か国の賛成で採択されたものの、唯一の被爆国である我が国はこの条約交渉会議にも参加しなかった。「安倍総理はどこの国の総理大臣なのか！」と怒りを込めて、日本政府の核兵器廃絶への姿勢を強く批判するとともに、平和憲法を改悪し、アメリカに追随し東アジアの核戦争の緊張を煽っていることを糾弾するとともに、世界の国と手を合わせ、脱原発社会に政策を転換させよう」と力強くあいさつがされました。

続いて、アメリカ・韓国・台湾からの海外ゲストから、それぞれ平和運動と脱原発への取り組みについて訴えや報告がされました。

広島県被団協の語り部の一人、「白石多美子さん」から、被爆体験が語られ、参加者はあらためて被爆にあった人々や街の様子から、原爆の悲惨さや悲しみを伝え、世界平和のために力を合わせましょと訴えられました。

恒例となっている、国連軍縮会議への高校生平和大使派遣事業では、第 20 代高校生平和大使の署名活動や被爆証言を聞いて、全国 22 人（広島 3 人）の代表派遣の決意表明に続き、**藤本泰成原水禁事務局**から、広島や長崎の分科会で議論が進むように、情勢と課題についてわかりやすく基調が提起されました。



(なお、会場で募った高校生平和大使へのカンパは 428,668 円でした。)

開会総会の閉会のあいさつで、広島県原水禁代表委員の秋葉忠利さんは、「核兵器廃絶に向けた被爆者や世界各国の市民の取り組みの成果として、今年 7 月 7 日に国連において、核兵器禁止条約が採択された。その意味で大きな節目の大会であり、これからの取り組みがさらに大きな意味を持つので、しっかりとつなげる運動をこの大会を機に進めていきましょう。」と力強く呼びかけられました。

(大会報告は、別添機関紙 NEWS PAPER も読んでください。)

次ページに広島大会のまとめ集会で採択された「ヒロシマアピール」を掲載

ヒロシマアピール

1945年8月6日午前8時15分、広島に投下された原子爆弾は、強烈な「熱線」、「爆風」、「放射線」のもと、その年の内に14万人もの生命を奪い去りました。あの日から72年、被爆者の高齢化は進み、限られた時間の中で、援護対策の充実と国家の責任を求めることが急務となっています。さらに、親世代の原爆被爆による放射線の遺伝的影響を否定できない、被爆二世・三世の援護を求める運動も重要です。

7月7日、国連本部で「核兵器禁止条約」が採択されました。私たちが願う「核兵器廃絶」へ向けての歴史的瞬間でした。この条約の前文において「核兵器の使用による被害者（ヒバクシャ）に引き起こされる受け入れがたい苦痛と危害に留意する」や「核兵器に関わる活動で先住民に対する不釣り合いに大きな影響を認識」と、私たちが訴え続けてきた「核廃絶なくして被爆者（ヒバクシャ）の救済なし」や「核絶対否定」の理念が込められており、原水禁運動が国際的に認められた証でもあります。これからは、日本政府に、唯一の戦争被爆国として、全世界の条約批准へ向け、核兵器保有国とその同盟国をリードしていく責任を認識させなければなりません。

東日本大震災による福島第一原発の事故から6年が経過していますが、いまだ約8万人近い福島県民が避難生活を余儀なくされています。しかし、安倍政権が進める原子力政策では、福島原発事故の反省もなく、12基の原発再稼働が認可され、その内、5基が私たちの強い反対にも関わらず再稼働を強行しました。それどころか、原発の新・増設の可能性すら追求し始めています。フクシマを決して忘れてはなりません。福島県民と周辺県で放射能汚染を強いられた人々の健康不安、特に子どもの健康にしっかりと向き合うよう、「被爆者援護法」に準じた法整備を国に求めるとともに、原発の再稼働や新・増設を許さず、全ての原発の廃炉、再生可能エネルギーへの転換を求めます。

安倍政権は、安全保障関連法制（戦争法）や組織犯罪対処法改正（共謀罪）を、市民の多数の反対を押し切って、国会での数の力により強行採決させてきました。さらに、2020年までには憲法を改「正」する構えを見せています。戦争により何が起こったのか思い起こすとともに、被爆地ヒロシマを体験した私たちは、9条を守り憲法を守り一切の戦争を否定し、二度と悲劇が繰り返されないよう訴え行動していきましょう。

これまで私たちは原水禁を結成し、52年にわたり一貫して「核と人類は共存できない」、「核絶対否定」を訴え続け、核のない社会・世界をめざして取り組んできました。現在、暴走し続ける安倍政権の戦争への道、原発再稼働への道に対抗していくことが喫緊の課題であり、未来ある子どもたちに「核も戦争もない平和な社会」を届ける取り組みを全力で進めます。

- 核兵器禁止条約で核兵器廃絶を実現しよう！
- フクシマを繰り返すことなく、全ての原発の再稼働や新・増設に反対し脱原発社会をめざそう！
- 原発事故の被災者と被曝労働者の健康と命と生活の保障を政府に強く求めよう！
- 非核三原則の法制化を実現しよう！
- 憲法改「正」を許さず、戦争法や共謀罪の廃止をめざそう！

- ヒバクシャ援護施策の強化ですべてのヒバクシャ支援を実現しよう！
- 被爆二世・三世の援護を実現しよう！
- すべての核兵器をなくし、核と戦争のない 21 世紀をつくろう！

ノー モア ヒロシマ、ノー モア ナガサキ、ノー モア フクシマ、ノー モア ヒバク
シャ

2017 年 8 月 6 日

被爆 72 周年原水爆禁止世界大会・広島大会

8.19 「安倍政治をストップ！」を市民に呼びかけ ストップ戦争法！広島実行委員会

ストップ戦争法！ヒロシマ実行委員会は、8月19日土曜日午後1時30分から広島市中区本通電停前（洋服の青山前）において、第2次安倍政権が誕生した以降、「戦後レジームからの脱却」というスローガンのもとで、「特定機密保護法」から「共謀罪」の成立を強行して、戦争のできる国造りを推し進めてきたこと。9条改憲の発言などから、実行委員会としても、平和と民主主義を守るために、安倍政治を許さないアピール行動の一環として、ビラを巻きながら市民へ訴える行動、を行いました。

まだまだ残暑が厳しい土曜の午後にも関わらず42人が参加し約45分間のビラ配布行動を行いました。



* 次回の19行動は、9月18日（祝）に、2年間の運動の集大成として、原爆ドーム前にて集会と、デモ行進を予定しています。

（8月22日要請文書 發文済）

「世界人権宣言の実現を求める広島県実行委員会」学習会

世界人権宣言の実現を求める広島県実行委員会では、部落解放同盟広島県連合会と合同で毎年開催している学習会を、8月19日、福山市人権交流センターにおいて開催しました。

今年の学習会は、インド禅定林住職のサンガラトナ・法天・マナケさんから「インド・被差別カーストの実態と解放への歩み」の講演を受けました。マナケさんは、9才から15年間日本で仏教を修行され、現在は、

インドで仏教を伝える活動をされていて、「インドでは、カースト制度という階級差別が根強く残っていて、職業の選択もカーストによって制限を受ける場合があります。インドはヒンドゥー教徒が多数で仏教徒は極少数となっています。私たちは、階級制度の撤廃につながるため、人々の平等をとるための仏教を広める活動をしています。ITなどインドの急成長が目立ちますが、その他大多数の地域では階級差別が残っています。これからも、階級差別撤廃の活動を続けます。」と、語られました。



.....

第20代高校生平和大使 ジュネーブへ 8/19 広島駅を元気に出発・壮行会実施される

国連欧州本部（スイス・ジュネーブ）にて開催される、軍縮会議へむけて、全国から22人の代表が福岡に集結し参加するため、広島県代表の3人も8月19日午後2時過ぎに広島駅を元気に出発しました。

その壮行会にはサポートを中心的に担ってきた広島県教職員組合の役員をはじめ、歴代の平和大使も駆けつけて、激励を行いました。第20代の3人（既報）からは、それぞれ「被爆地ヒロシマにおいて高校生の運動を通じて感じたことを世界各地へ伝えていく」との決意が述べられました。県原水禁から渡辺事務局長が参加し、代表して壮行のあいさつを行いました。代表団は署名活動や原水禁大会（広島・長崎）での行動など取材や署名活動・集会などハードなスケジュールをこなしながらも、元気な姿で出発してくれました。

今後も続くこの運動へ、引き続き支援の取り組みをよろしく願います。

